

文化生活部

kurashi@kumanichi.co.jp

TEL:096-361-3020 FAX:096-361-3290

# 医療の窓

MEDICAL-COLUMN

④ 鈴島 仁さん

## 貧血 正確な診断と治療を

貧血という言葉を知り、病気(疾患)の一つと認識される方は比較的少ないのではないのでしょうか。『脳貧血』などの俗語があるように、血のめぐりが悪

いことも「貧血」と誤解されています。

貧血は血液中の赤血球成分であるヘモグロビンが低下している状態です。ヘモグロビンは全身に酸素を運んでくれるトラックのような存在。低下すると、全身の臓器が酸素不足に陥り、めまい、ふらつき、倦怠感などの症状が現れます。

最も頻度が高い貧血は鉄欠乏性貧血で、定期的な月経がある女性によく見られます。出血による慢性的な鉄の喪失があるためです。

誰でも起こる疾患ですが、『貧血気味』という言葉がよく使われ、あまり病気を認識されていないようです。

本来なら貧血を起こさないよう、定期的に血中のヘモグロビン値とフェリチン(貯蔵鉄)値を測定し、鉄不足なら鉄剤を服用してフェリチン値を正常に戻さな

ければいけません。日本は他の先進国と比較して患者数が多く、日本人女性の8〜10%程度が罹患しています。これは日本の若い女性が欧米に比べ、医療機関に行きたがらない傾向があることも関係しているように思えます。

実際に検診で指摘されても、「女性だから貧血は当たり前だ」と思っていたという程度の認識で放置されていることが多く、「どうしてここまで我慢できたの

か」と驚くこともしばしばです。

貧血も鉄欠乏も長い間放置すると、脳や心臓への影響が懸念されます。臓器の中でも特に酸素が必要で、記憶力の低下や息切れ、足のむくみなどの心不全症状が出現することがあります。ぜひ鉄剤の内服治療をお勧めします。

また貧血の中には、鉄剤が奏功しない疾患もあります。その一つが、赤血球の構造に関係するビタミンB12が吸収しにくくなり、不足した結果貧血を起こす「悪性貧血」。高齢者に多い病気で、ヘモグロビン値が低いと鉄剤が処方されることがありますが、正確

な診断さえつければ治療は簡単です。ビタミンB12を注射してあげると、劇的に改善します。

そのほかにも野菜に含まれる葉酸や微量元素の銅、亜鉛が欠乏すると貧血を誘発することも知られています。

いずれにしても、貧血は正確な診断と治療を行うことが重要です。「たかが貧血」という考えを改めていただければ幸いです。

◇ ◇  
(くまもと森都総合病院院長)

私たちの体や心の病気に向き合う医療従事者。健康や医療に関する身近な話題を、県内の医師らに月1回、語ってもらいます。



◇すずしま・ひとし 福岡市出身。熊本大医学部卒。血液内科専門・指導医。22年4月から現職。熊本大病院(血液・膠原病・感染症内科)臨床教授。60歳。